

鳥取県内の農産物輸送における事例について

第15回鳥取県トラック輸送における取引環境・労働時間改善協議会

○梨の配送について、パレットを導入し、輸送の効率化を図った事例。

取組の概要

- 発荷主:JA鳥取中央琴浦営農センター 東伯梨選果場
- 運送事業者:株式会社 田中商店
- 荷種:梨 約800~900ケース
- 運行概要:選果場から市場(主に大阪)までの輸送
- 選果場での荷積みについて、着荷主の規格に合わせたパレットを導入し、作業負担の軽減を図った事例。

取組に至る経緯

- 独自規格のパレットに積まれた箱を、手荷役により積込みをしていた。
 - ▶ 積込みだけでなく、着荷主(市場)のパレットへの載せ替えにも時間がかかっていた。
- 運送事業者から、市場の規格に適合したパレット(120cm×100cm)への変更を提案
選果場も、積込み開始時間を早めることで、市場のピーク時を避けることも可能

運送事業者がパレットを管理し、選果場が荷物量を事前に市場へ連絡することで変更が実現

取組の効果

積込み

1時間30分



最大30分まで削減

荷下ろし

2時間



最大20分まで削減

作業員

3~4人



1人で作業が可能に

荷待ち

3~4時間



ほぼ解消(最長で1~2時間)

市場での優先的
な荷下ろし

ドライバーの拘束
時間の削減

休息時間の確保

が実現

両事業者のメリット

運送事業者

- ・作業にかかる人件費を削減できる他、暑い環境での健康管理にも繋がった。
- ・荷下ろしが完了する時間が早くなり、日付を跨いで運行することもなくなった。
- ・協力会社の車両確保が容易になった。
- ・市場のピーク時間を避けることができ、運行にゆとりがもてるようになった。



生産者(選果場)

- ・選果場の従業員の拘束時間も削減できた。
- ・箱につく傷、へこみがなくなり、品質維持に繋がった。

着荷主(市場)

- ・等級や階級ごとの仕分けが容易になった。
- ・箱につく傷、へこみがなくなり、品質維持に繋がった。
- ・荷下ろしの回転率が良くなり、市場側の人手不足の対策にもなった。



○梨の配送について、集荷依頼の集約・配送日の変更により輸送の効率化を図った事例。

取組の概要

- 荷種: 梨 約700~900ケース(1ケース: 10Kg換算)
柿 約700~1800ケース(1ケース: 3Kg換算)
- 運行概要: 鳥取県内の選果場から関東の市場までの輸送
- 選果場ごとの集荷・発送から、協同組合がそれらを取りまとめて集荷の依頼をし、さらに配送日を当日から翌日へ変更した。

取組の効果

	運転時間	拘束時間	休息時間
取り組み前2日平均	7.75時間	11.75時間	10時間
取り組み後3日平均	約6.5時間	9時間	13.25時間
効果	約1.25時間の削減	2.75時間の削減	3.25時間多く確保

運行にゆとりができ、ドライバーの労働環境が改善される結果となった

当事者の声

生産者



- ・関東への出荷を取りやめる声もあったが、本取組みを行い、鳥取の特産物をより広く届けることができるようになった。
- ・鳥取県産青果物の（全国的な）認知度およびブランド力向上と、それにより販売価格が安定し、生産者の所得安定につながった。

運送事業者



- ・延着のリスクがなくなり、ドライバーの精神的負担がなくなった。
- ・休息時間が十分に確保でき、帰り荷の幅が広がった。（早朝の荷積みも可能）
- ・安定した速度で走ることができ、燃費が向上した。
- ・関東圏での卸し場所が数カ所増えても対応できる。
- ・市場のピーク時間を避けて到着できるため、自分のペースで作業ができ、商品の品質確保に繋がった。

今後の課題

当日に選果した果物を運ぶ場合、荷待ち時間が多くなり、その分ドライバーの拘束時間が増加し、休息時間が減少する。



前日に選果した果物を待機なく積込むことで、待機時間等のロスを減らした運行が可能になる。

- △当日選果した物を運ぶことはできない
- △農協職員の休日出勤が発生する

関東方面への運送は運転時間・拘束時間が多く加算されるため、休日も加味すると、1往復だけで1週間の仕事が終わることもあるため、給与が低水準になる。



給与水準の維持、物価高騰によるコスト増に対応するためにも、運賃水準の向上が必要である。

- △高値になると売れず、安価になると生産者の所得が減少するため、後継者不足に拍車がかかることを考慮し、生産者と運送会社が負担を折半する位の運賃値上げしか出来ていないのが現状